



施設廃止後の新たな指定避難所の選定は？
安田 佳世（久比岐野）



Q 既存施設の廃止等に伴い、指定避難所としての使用ができなくなる場合の対応を聞きたい。

A 施設の収容能力や移動距離を考慮し、適当な公共施設を新たに指定する。見つからない場合は、代替となる既存の指定避難所への避難経路や避難方法を地域住民に提案し、変更する。

Q 新潟労災病院閉院後における、直江津駅南区の避難場所確保に向けた取組状況はどうか。

A 候補施設の現地調査を実施するとともに、地元企業や関係町内会と協議を行い、民間施設や町内会館を新たに指定できるよう調整を進めている。合意形成に向け、調整を一層加速する。

小木直江津航路の活性化を！

Q 航路の利用促進や上越市と佐渡市の観光振興を目指し、両市議会で「越佐小木直江津航路振興議員連盟」を設立した。市と議連の連携、小木直江津航路に対する市長の思いを聞きたい。

A 小木直江津航路は経営面で厳しい状況が続いているが、「佐渡島の金山」世界文化遺産登録や、民間事業者の参入による佐渡汽船経営の改善などにより、新たな動きも生まれている。小木直江津航路は地域にとってかけがえのない存在であり、議会と共に、活性化に向け力強く取り組んでいく。



当市の観光施策今後の行方は？
高山 ゆう子（市民クラブ）



Q 市長が考える観光の取組は、インバウンド施策により、当市の自然の美しさや魅力ある資源を活かして誘客を進めるとあるが、これまでの通年観光計画の主要な事業である「高田・直江津・春日山」はどうなるのか。中止や縮小もあるのか。13区の観光施策はどう進めるか。

A 13区を含む市全体の多様な魅力を最大限引き出せるよう、費用対効果や優先順位を精査しながら事業の必要性を判断したい。

Q 市長が変わったが、西の拠点である「うみてらす名立」の老朽化に伴うリニューアル計画は今後どうなるのか。

A 令和12年頃を目途に大規模改修する従来の方針は変わっていない。リニューアルに向けた取組を着実に進めていく。

市役所木田庁舎の市民ホールに賑わいを！

Q 1階ホールは吹き抜けの開放的な空間であるが、現在活気に乏しい。テーブルや椅子の増設、BGMを導入し、市民や職員が共に利用できるラウンジにして、市民の憩いの場・交流の場として整備できないか。

A 趣旨に全く同感する。できることから着手し、計画的に実施の検討を進めていく。



（私が考える1階市民ホールのイメージ）



防犯灯の更新費用補助制度を
平良木 哲也（日本共産党議員団）



Q 町内会のLED防犯灯は、順次寿命を迎えるが、その更新費用について、どう考えているか。

A 現行の要綱に基づき各町内会にお願いする。LED化による電気代の節約額はいくらか。

A 年間約3700万円になる。

Q その分を補助に回せないか。

A 相当額の財政出動になり、見込めない。

Q 憲法や他の法律から考えると、防犯灯の設置や管理は行政の役割ではないか。

A 防犯灯は町内会自らが地域の実情に応じて設置場所等を判断し、維持管理が図られているものと考えている。

Q 防犯灯の所有権はどこにあるのか。

A 町内会設置のものは町内会に帰属している。

Q 仮に落下事故などが起こると、町内会が所有者責任を問われることになる。その際、全責任を町内会に負わせることになるのはあまりではないか。

A その点は承知していない。

Q このように、公平性や公共インフラの責任、事故があった場合など、様々なことを考えると、やはり行政が責任を負うべきではないか。

A 市民の安心安全の確保は行政がなすべき第一の課題である。町内会にも変化が起こっており、各地で様々なやり方をやっていることも事実である。それらを勘案しながら研究したい。